

環境方針



人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、私たち三総合研究所は一体となり、事業活動を通じて社会の環境負荷の低減に取り組みます。

1. 「NTTグループ地球環境憲章」に基づき、「NTTグループ環境宣言」が示す未来の実現に向けて、環境保護活動を推進します。
2. 事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。
3. 生態系は持続可能な社会の重要な基盤であると認識し、その保全に貢献します。
4. 環境保護に貢献する研究開発成果の創出、提供を推進します。
 - ・グリーンR & Dガイドライン等に基づいた研究開発アセスメントの実施
 - ・ライフサイクルアセスメント等を用いた環境貢献度の評価
5. 研究開発活動に伴って生じる環境汚染の予防に取り組みます。
 - ・エネルギー及び資源の有効利用
 - ・廃棄物のリサイクル推進
 - ・化学物質の適正管理
6. 地域環境保護活動への参加並びに環境関連情報の公開により、研究所内外とのコミュニケーションに努めます。
7. 環境に関する法規制及びその他の要求事項を順守するとともに、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

2018年 7月1日

日本電信電話株式会社

サービスイノベーション総合研究所 所長 川村 龍太郎

情報ネットワーク総合研究所 所長 伊藤 新

先端技術総合研究所 所長 寒川 哲臣

2018年度 環境マネジメント報告

概要

2014年度より、各総研において個々に認証されていた環境マネジメントシステム (EMS※1) を統合し、三総研で統合認証を取得することで、積極的かつ効率的に環境負荷削減に取り組んでいます。

研究開発活動によるCO₂排出量などの環境影響を把握し、居室、実験室、共通設備それぞれに対応した省エネルギー施策を積極的に進めています。

省エネルギー施策の取り組みに加え、PPC用紙使用量の削減や資源リサイクル率向上の取り組みは、三総研で働くすべての人に浸透・定着しています。

地域社会への貢献や生物多様性の保全についても、継続的に取り組んでいます。地域社会への貢献としては、清掃活動を活発に実施しました。生物多様性の保全については、環境保全活動としての棚田の保全活動 (P23掲載) などを行いました。

武蔵野研究開発センタでは、2月に2019年度に向けたSEGES (※2) 維持審査を受け、3月13日に「2019SEGES認定」が決定しました。武蔵野の雑木や草花の群生地が敷地内に多く残され、地域の貴重な自然となっていること、桜の開花に合わせて公開する「武蔵野桜まつり」開催など、地域の環境保全・コミュニケーション活動を実践していることにより、社会・環境に貢献する優れた緑地として認定されました。

7月25日には、2018SEGES評価・認定委員会で横須賀研究開発センタが、「社会・環境貢献緑地」に認定されました。

三総研では、2018年1月よりISO14001に基づく最新版の環境マネジメントシステムJIS Q 14001:2015 の要求事項に基づいた運用を行っています。

※1 EMS: Environmental Management System

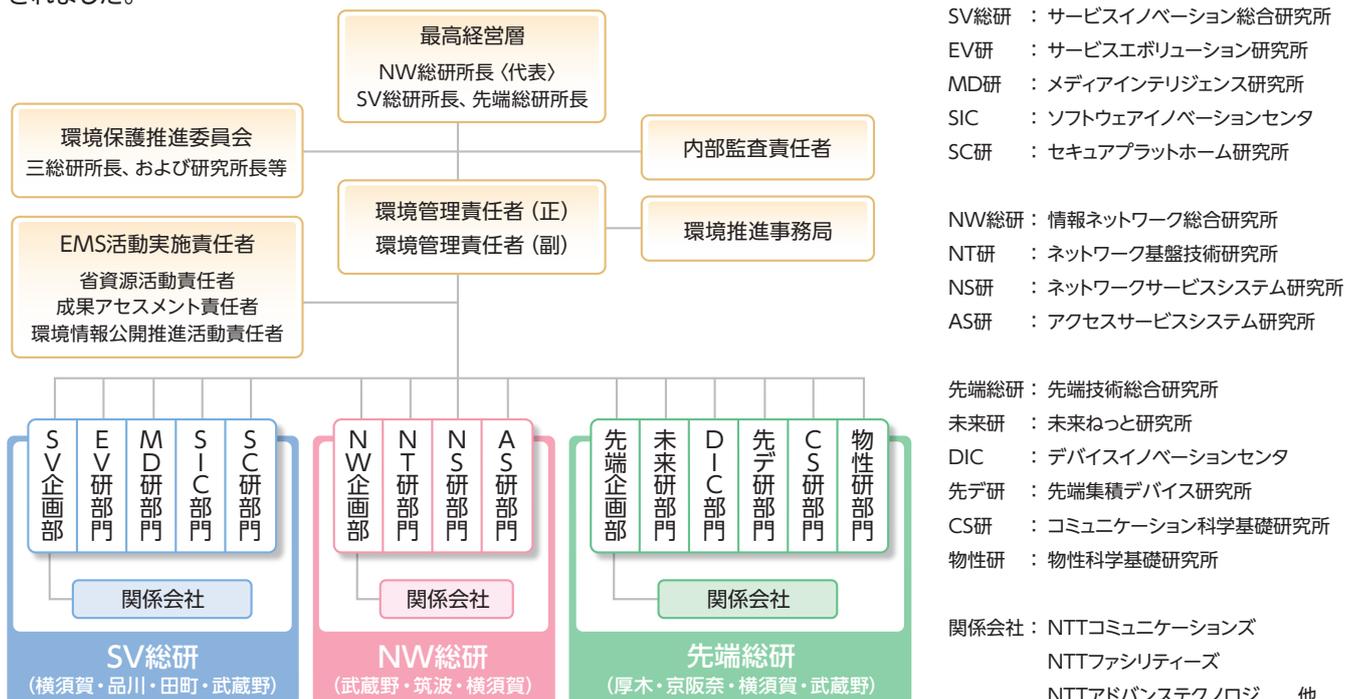
※2 SEGES: Social and Environmental Green Evaluation System (社会・環境貢献緑地評価システム)

体制

三総研EMSでは、情報ネットワーク総合研究所所長を代表とし、サービスイノベーション総合研究所所長、先端技術総合研究所所長の三総研所長を最高経営層として、EMS体制を確立し、三総研一体となった環境保護活動を推進しています。

最高経営層の三総研所長、および各研究所の所長で構成する「環境保護推進委員会」を年2回開催し、環境目標、実施計画などの審議や、EMS活動の報告を行っています。

「環境管理責任者」は、最高経営層から活動に関する指示を受け、「部門」と連携して、環境保護活動を推進しています。



三総研 環境マネジメントシステム (EMS) 体制

2018年度 環境マネジメント報告

内部監査

EMSがISO14001の要求に適合し、有効に実施、維持されているかを評価するため、10月15日～19日に、EMS内部監査を実施しました。

観察事項7件、改善課題3件、良い点8件でした。良い点と判断された施策については、水平展開を行いました。

また、監査所見では、三総研EMSの有効性が高く評価されました。

ISO14001認証登録の更新・移行

1月16日～18日に、一般財団法人 日本規格協会 (JSA) による審査を受審しました。不適合を含めた検出課題は指摘されず、三総研の環境マネジメントシステムは、ISO14001:2015の規格要求事項を満たし、EMSおよびプロセスの運営が計画的に適切に実施されていること、体制が維持されていることが確認されました。この結果ISO14001:2015の登録継続が承認されました。

項番	監査所見概略
1	三総研EMSは、定められたルールに則り、適切なEMSが維持・運用され、積極的な取り組みが実行されていることを確認した。また、監査を通じ【前年度に実施された【内部環境監査】の指摘事項は発生原因が究明され、是正処置が継続実施されていること】および【【外部審査】での改善の機会も、是正処置が検討・実施されていること】を確認した。
2	三総研EMSでは、研究成果物を環境の観点からのアセスメントを実施し、その情報をホームページ上で公開しています。「利害関係者から求められるもの」「企業として順守すべきもの」は何かが明確に特定され、外部の利害関係者に自発的に発信するという優れたシステムが構築されていた。
3	環境パフォーマンス向上に向け、各研究所・ロケで省エネ・省資源・廃棄物削減について独自の創意工夫した活動が確認された。
4	「環境法規制等登録一覧表兼順守評価表」と環境法上の有資格者登録表の整合性を整理することを期待する。
5	グリーン購入比率について、方法が複雑で有意義な数値の算出が困難であることから、EMS監視項目として2018年度から除外したが、グリーン購入の推進は上位方針でもあり、長年取り組んでいる施策でもあることから、対象を事務用品に限定してでも、継続を再検討されることに期待する。



審査の様子 (武蔵野研究開発センタ)



ISO14001登録証と登録証付属書

2018年度 環境マネジメント報告

目標と実績

項番	取り組み項目	目標	実績	評価
1	生物多様性の保全	下記項目の活動により、生物多様性の保全に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・横須賀研究開発センタが、公益財団法人都市緑化機構のSEGES評価・認定委員会より、社会・環境貢献緑地として認定 ・武蔵野研究開発センタが、SEGES維持審査を受け、SEGES認定継続が決定 ・横須賀研究開発センタ及び厚木研究開発センタが、ひまわり里親プロジェクトに参加し、収穫した種を福島へ送付 ・厚木七沢地区の棚田保全活動を実施 ・武蔵野研究開発センタの壁面緑化「グリーンカーテン」を推進 ・武蔵野研究開発センタ敷地内の樹木131本が武蔵野市認定保存樹木に指定 	○
2	本業における持続的発展可能な社会への貢献	研究開発成果あるいは業務遂行における環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①研究開発成果における環境への貢献：18件実施 ②業務遂行における環境への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ・省資源・省スペース等：18件実施 ・法令順守による地球温暖化の防止：3件実施 ・生物多様性の保全：1件実施 	○
3	研究開発成果物で「環境への取り組み」を推進	(1) 研究開発アセスメントの実施 研究開発成果グリーンアセスメント報告書を活用した研究開発成果の環境影響評価の実施	研究開発成果グリーンアセスメント報告書を活用した研究開発成果の環境面への評価を225件実施	○
		(2) 研究開発成果の環境貢献度評価の実施 NTT事業やユーザに対し、環境面で大きな貢献を果たすものについて定量的評価を実施 (研究開発成果による環境貢献の評価)	環境貢献度評価を10件実施	○
4	環境情報公開の推進	環境活動に関する情報発信 ・環境レポートによる情報公開	環境レポート2018の公開	○
5	化学物質の適正管理	(1) 化学物質の適正使用と保管および教育・訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ①化学物質管理システム (IASO) のバージョンアップおよび薬品取扱安全教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・薬品取扱いに関する講習会実施 (約250名が参加) ②塩化第二鉄 (PRTR報告物質) の使用量の前年度維持 <ul style="list-style-type: none"> ・年間累計：2.15m³ (対前年▲10.7%) 	○
		(2) センタ排水水質汚濁物質の流出未然防止	排水 (下水・雨水) の水質の定期的な分析を実施し、すべて法定値以下であることを確認 ・廃液処理施設から放流される実験系排水 ・厨房排水を含む生活系排水の最終汚水柵の汚水	○
6	地域社会への貢献	清掃活動実施	各ロケーションごとに周辺道路など、近隣企業などとともに清掃活動を実施 ・横須賀研究開発センタ：179名 ・武蔵野研究開発センタ：440名 ・厚木研究開発センタ：223名 ・筑波研究開発センタ：258名	○
7	「NTTグループ環境宣言」に従い、低炭素社会への貢献 研究所CO ₂ 排出量削減の推進	4ロケーション全体のCO ₂ 排出量削減の推進 ・現行水準の維持 目標：2010年度実績値▲30%	各ロケーションともCO ₂ 排出量の削減目標に対して電力削減等を実施し、2018年度実績42,225t-CO ₂ ・2010年度実績値から▲35%	○

2018年度 環境マネジメント報告

環境影響評価の概要

直接と間接影響環境側面から評価しています。

直接影響環境側面は、三総研自ら管理可能な環境側面で、エネルギー等の資源と廃棄物等の排出を対象に、使用量を基準とした定常と保管量を基準とした緊急の側面で評価しています。

間接影響環境側面は、三総研が直接管理できないが、三総研へのINPUTと三総研からのOUTPUTについて間接的に影響を及ぼすことができる環境側面について評価しています。

研究開発成果グリーンアセスメント

NTTグループでは、環境負荷が小さく、かつ社会の環境改善効果のある研究開発成果の創出を目標として、2000年に「グリーンR&Dガイドライン」を制定しました。三総研では、この「グリーンR&Dガイドライン」に基づいて2004年に「研究開発成果グリーンアセスメント詳細ガイドライン」を制定しました。ハードウェアだけでなくソフトウェアの研究開発に対して開発判断時、成果提供時、契約時、納品時のグリーンアセスメントを実施することで、環境改善を図る取り組みを強化しています。

2018年度の実績としては、サービスイノベーション総合研究所で92件、情報ネットワーク総合研究所で118件、先端技術総合研究所で14件のグリーンアセスメントを実施しました。

今後も、研究開発成果に対してグリーンアセスメントを実施し、研究開発成果の環境配慮に努めていきます。

研究成果物の情報公開

「NTT R&Dフォーラム」を年に1度、武蔵野研究開発センターにて開催しています。

今回のフォーラムは「Transforming Your Digital Visions into Reality」をコンセプトに「NTT R&Dフォーラム（秋）」として11月29日、30日の2日間にわたり開催しました。

NTTグループは、お客さまに最高のサービスと信頼を提供することで、『Your Value Partner』として選ばれ続け、豊かな社会の実現に貢献していくことを目指しており、本フォーラムでは、それに資する最新の技術や研究成果について講演、展示を通じて分かりやすくご紹介しました。

環境貢献度評価

NTTの事業やお客さまに提供する研究開発成果が、どれだけ環境に貢献できるかを明らかにするために、ライフサイクルアセスメント（LCA）手法を用いた定量的なCO₂排出削減量の評価を毎年実施しています。

2018年度は、ソフトウェアが3件、各種技術が7件の合計10件の研究成果に対して評価を実施しました。

今後も、より多くの研究開発成果に対して評価を実施し、環境に配慮した研究開発成果の創出に取り組んでいきます。

● 環境貢献度評価案件一覧

項番	環境貢献度評価案件一覧（順不同）
1	多言語音声認識プラットフォーム
2	転送パケット制御基盤技術（異常トラヒック収集対処機能）
3	構造劣化判定技術
4	ソフトウェアスイッチ・ルータ [Lagopus]
5	システム更改を支援する隠れ業務ルール推定技術
6	マンホール用新型鉄蓋
7	レジンコンクリート製マンホールの維持管理基準及び補強技術
8	レジンコンクリート製マンホールの非破壊検査による点検技術
9	高電圧直流給電システム
10	無塗装鉄塔向け劣化対策技術

2018年度 環境マネジメント報告

環境教育

三総研では、環境負荷低減、および環境保護推進活動に対する意識向上と必要な技術や知識を習得するため、構成員に対して以下のような教育や取り組みを実施しています。

全構成員を対象に一般環境教育を実施し、三総研EMS活動の目標、取り組み、活動を推進するための体制や各人の役割と責任などについて学習し、理解を深めています。

学習の最後に確認問題を設けて、学習した内容が全構成員に浸透するように工夫しています。

● 環境教育一覧

項番	環境教育／取り組み	対象者	目的
1	一般環境教育	全構成員	・環境マネジメントシステムを理解し意識して行動する。 ・自分の仕事が環境へ影響を与える事を理解し、意識して環境に貢献する。
2	特定業務従事者教育	全研究者	・特定業務従事者として環境に配慮した研究開発活動を推進する。
3	新入・転入者教育	新入・転入者	・安全、環境に関する知識・意識を向上する。
4	新任環境管理者教育	新任の環境管理責任者など	・環境マネジメントシステム運用手順に関する能力を高める。
5	EMSニュース	全構成員	・環境マネジメントシステムの理解を深める。



一般環境教育資料

EMSニュースは、全構成員に三総研EMSをより深く理解してもらうために発行しています。2018年度は4回発行し、各総研で取り組んだEMS活動の良い事例について水平展開を図りました。



新入・転入者教育 (武蔵野研究開発センタ)



EMSニュース

2018年度 環境マネジメント報告

環境負荷の全体像

三総研で使用している資源、エネルギー使用量と、排出している物質量のデータを以下に示します。

